令和元年度カリキュラム開発拠点校の取組発表

広島県立広島国泰寺高等学校

イノベーティブなグローバル人材の育成に向けて

ー課題発見解決型の探究プログラムの取組ー

令和４年２月21日

於　文部科学省委託調査
「WWLコンソーシアム構築支援事業における
EBPMに向けたデータ収集・分析、効果検証
等のための調査研究」 成果報告会

【説明する内容】

1　広島国泰寺高等学校の取組の概要：目標，取組

2　探究活動に係る実践

①総合的な探究の時間

②文理融合科目

3　事業実施による成果・課題・来年度以降の予定

＊目標

本校の取組内容を知っていただく

本校の取組に対して指導・助言をいただく

１　広島国泰寺高等学校の取組の概要

①本校を拠点校とするWWLの目標

②必要な資質・能力

③教育課程内の取組

④課外活動での取組

①本校を拠点校とするWWLの目標

「イノベーティブなグローバル人材」の育成

＝「グローバルな視野と強い使命感をもって**持続可能な社会の構築**や**国際社会の平和と発展に貢献する人材**」の育成

＝**広島だからこそできるグローバル人材**の育成

広島県HPより

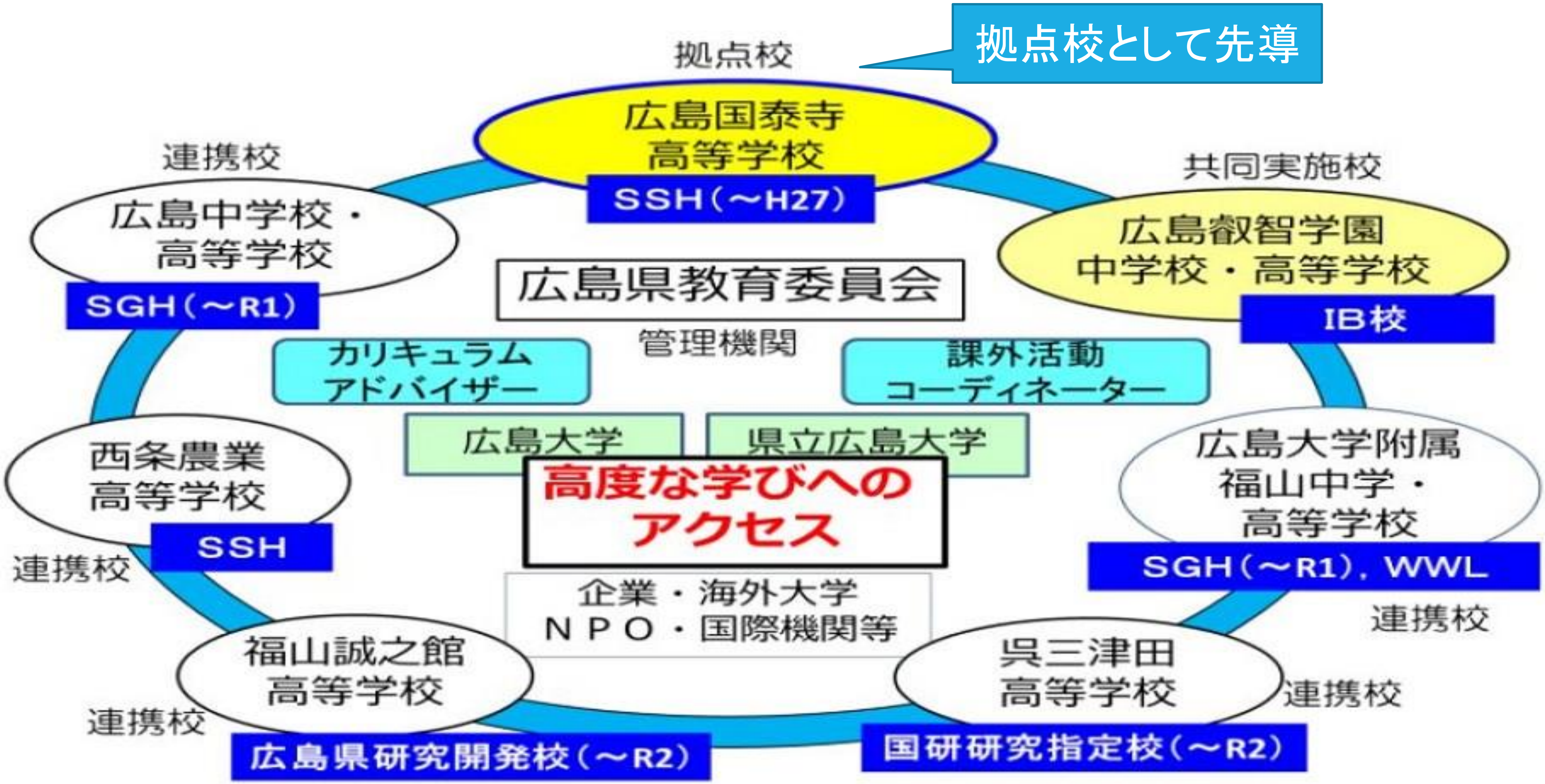
平和－Peace－

【一中慰霊祭　03/07/25】

- 平和記念公園に最も近い高等学校(本校)が
  取り組んできたテーマ

- 幅広い視点からアプローチできるテーマ

広島AL(アドバンスト・ラーニング)ネットワーク



②必要な資質･能力

ア）主体的に課題を発見する力（課題発見力）

イ）課題の解決に向けて粘り強く探究する力（思考力）

ウ）多様な他者と協働して問題を解決する力(解決力）

＋「新たなものを生み出す感性･柔軟性･態度」（心構え）

育てたい資質・能力　7つの項目(ルーブリックでチェック)

	資質・能力	定　義
知識	①知識・技能	○社会及び対象を多面的に捉え，問題を解決していくための知識・技能
スキル	②課題発見・解決力	○社会及び対象を多面的に捉え，自分との関わりにおいて問題を発見する力
		○問題の解決に向けて，多様な他者と協力して探究し，問題の解決策を導き出す力
	③言語・コミュニケーション能力（日／英）	○場面，状況及び目的に応じて，文章や情報を正確に読み解き，文章や他者と対話する力
	④批判的・論理的思考力	○事象について，多面的・分析的に考察する力
		○事象について，論理的に考察する力
心構え・考え方・価値観	⑤イノベーション	○グローバルな視点で社会に貢献するための，新たなものを生み出す感性・好奇心
	⑥オープンマインド	○多様な考えや価値観をもつ他者に対する寛容さ，異なる意見の他者と良好な人間関係を構築しようとする態度
		○変化に対する柔軟性
	⑦グリット	○困難や失敗に対してもあきらめず，試行錯誤をして最後までやり遂げようとする態度

③教育課程内の取組

ア）グローバルな社会課題をテーマとした探究活動

（カリキュラム開発）＝**総合的な探究の時間**

イ）外国語と文理教科の融合科目（の創設）

＝**グローバル平和探究（第2学年普通）**

ウ）英語力の育成＝**グローバル・イングリッシュ（第2・3学年選択）**

エ）バランスよく学ぶ教育課程の編成

＝**地歴公民，理科の必履修科目**

その他　短期・長期の海外研修＝本校独自のイギリス，BCA

※コロナ禍で中止

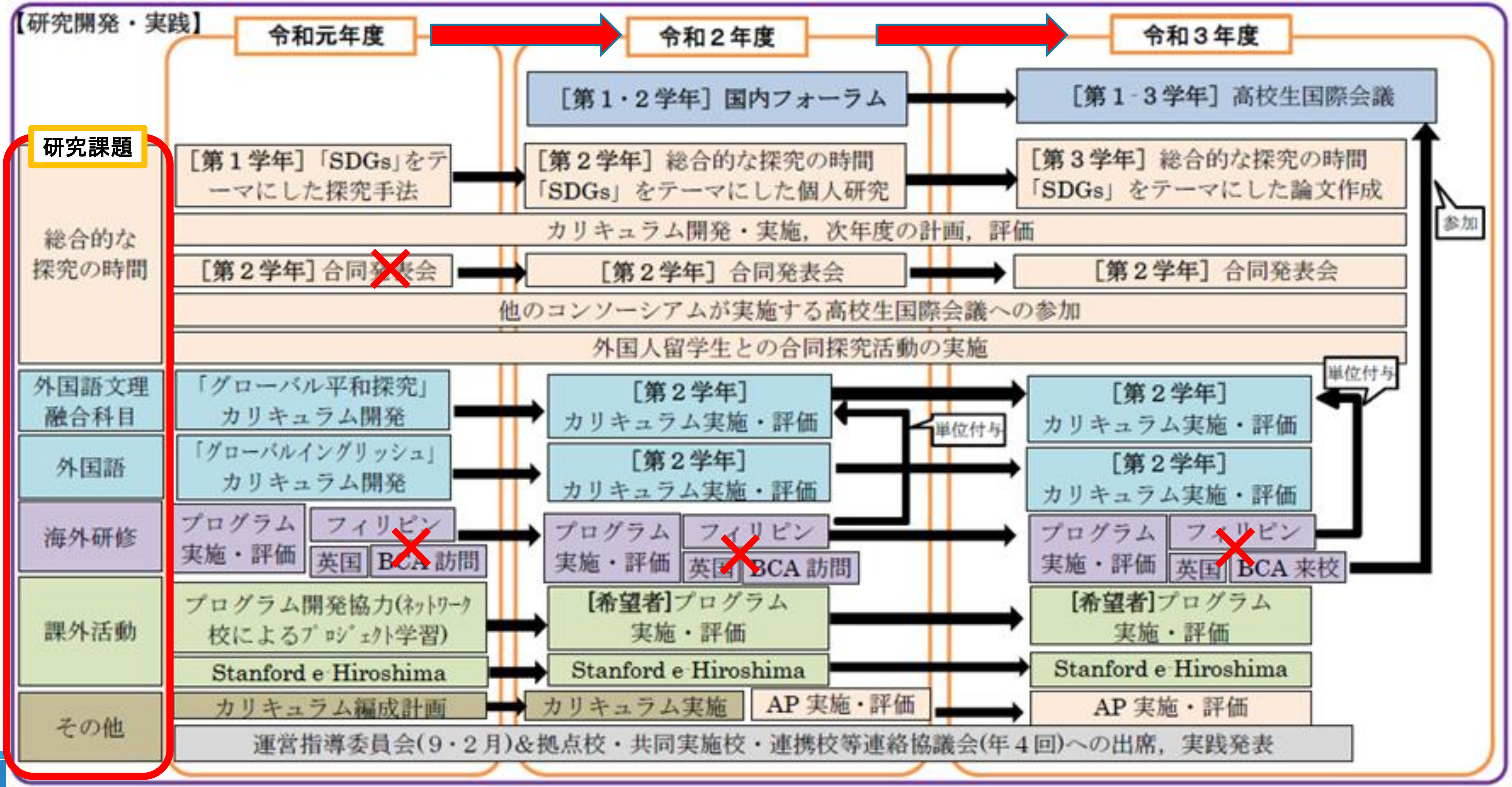
④課外活動での取組

ア）３月「国内フォーラム」
　　７月「高校生国際会議」 いずれもオンライン
　　生徒実行委員会でwebサイト立上げ（https://hiphope.jp/ja/top）

イ）アドバンスト・プレイスメント
　　（広島大学・県立広島大学の先取履修，単位修得）

ウ）海外大学と連携した遠隔講座
　　（Stanford e-Hiroshima）

エ）探究的な活動を伴う海外研修　※コロナ禍で中止


【研究開発・実践】
令和元年度
令和２年度
令和３年度
研究課題
［第１・２学年］国内フォーラム
［第１-３学年］高校生国際会議
総合的な探究の時間
［第１学年］「SDGs」をテーマにした探究手法
［第２学年］総合的な探究の時間「SDGs」をテーマにした個人研究
［第３学年］総合的な探究の時間「SDGs」をテーマにした論文作成
参加
カリキュラム開発・実施，次年度の計画，評価
［第２学年］合同発表会
［第２学年］合同発表会
［第２学年］合同発表会
他のコンソーシアムが実施する高校生国際会議への参加
外国人留学生との合同探究活動の実施
外国語文理融合科目
「グローバル平和探究」カリキュラム開発
［第２学年］カリキュラム実施・評価
［第２学年］カリキュラム実施・評価
単位付与
単位付与
外国語
「グローバルイングリッシュ」カリキュラム開発
［第２学年］カリキュラム実施・評価
［第２学年］カリキュラム実施・評価
海外研修
プログラム実施・評価
フィリピン
英国
BCA訪問
プログラム実施・評価
フィリピン
英国
BCA訪問
プログラム実施・評価
フィリピン
英国
BCA来校
課外活動
プログラム開発協力(ﾈｯﾄﾜｰｸ校によるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習)
［希望者］プログラム実施・評価
［希望者］プログラム実施・評価
Stanford e-Hiroshima
Stanford e-Hiroshima
Stanford e-Hiroshima
その他
カリキュラム編成計画
カリキュラム実施
AP実施・評価
AP実施・評価
運営指導委員会(９・２月)＆拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会(年４回)への出席，実践発表

２　探究活動に係る実践

①総合的な探究の時間

②文理融合科目

【実践例①－１　総合的な探究の時間】

〈第１学年〉**【平和について概括的に，多面的・多角的に考える】**

ア)「戦争」に対置される「平和」　平和記念資料館見学

イ)「平和」と自分　　企業×SDGs，行政×SDGs，大学×SDGs

ウ)「探究活動の始め方」　講演会

【実践例①－２　総合的な探究の時間】

〈第２学年〉【平和について，自分との繋がりから考える】

ア）社会人TA，留学生への発表→指導・助言

イ）自己評価のためのルーブリックを作成

→年度末（３月）に課題研究成果発表会

同窓生を前にした中間報告会

課題研究成果発表会
→

【実践例①－３　総合的な探究の時間】

〈第３学年〉

【平和について，高校生として何ができるか，この問題の解決にどのように取り組んで行くかを主体的に考え実行する】

ア）論文の作成→コンクールへの出品

イ）最終発表

ウ）研究の振り返り＝**メタ認知**　「私の学びの木」作成

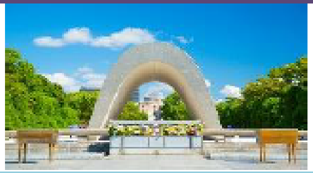
【実践例②－１　文理融合科目（グローバル平和探究）】

『グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材の育成』
（イノベーティブなグローバル人材の育成）

【必要な資質・能力】
①社会及び対象を多面的に捉え主体的に問題を発見する力　②問題の解決に向けて粘り強く探究する力　③多様な他者と協働して問題を解決する力

総合的な探究の時間

各教科



グローバル・イングリッシュ（ＧＥ）

文理融合科目　教科横断型科目

グローバル平和探究（ＧＨ）

地歴・公民（地理）
「持続可能な社会の構築」に関わる社会課題の提示

数　学
統計データの分析や活用法

理科（生物）
環境問題などの社会課題への自然科学からの視座

外国語（英語）
多様な他者とのコミュニケーションツール

【ねらい】
・グローバルな社会課題の構造について理解し，課題の解決に向けて自分なりの意見をもち表現する。
・具体：ＳＤＧｓのテーマを，内容（構造）の理解とともに，解決に向けたアプローチを探究し，探究手法や表現方法を学ぶ。

資質・能力の育成に必要な①②の循環　※印　ＧＨで特に伸ばしたい資質・能力

主体的・対話的で深い学び

【習得・活用】知識・技能※

①

【探究活動】→スキル
・他者との協働
・課題発見・解決力※
・批判的思考力
・論理的思考力
・言語・コミュニケーション能力※

②

【心構え・考え方】オープンマインド・イノベーション※・グリット

仮説

具体

ＳＤＧｓに因む課題
・環境問題，・人口問題
・都市問題，・民族問題
・エネルギー問題

活動（表現・協働）
・レポート
・プレゼンテーション
・ディスカッション
・ディベート

諸機関との連携・協力
【講演会】（知識の補助・提起）
・ＪＩＣＡ・中国電力・サタケ
【指導助言（生徒）】
・広島大学　大学（院）生，留学生
【指導助言（学校）】
・運営指導委員
・カリキュラムアドバイザー

【実践例②－２　文理融合科目（グローバル平和探究）】

単元：エネルギー問題

テーマ「日本において原子力発電所(原発)の存続は是か非か」

①講演会　[問題提起]
・最新のトピックス

②地理　[知識]
・世界，日本のエネルギー

文系・理系の隔てなく，知識・技能を総合して，課題に取り組む。

③理科(生物)　[知識]
・原発の仕組
・放射能の生物学的影響

④数学　[技能]
・統計，グラフの見方・示し方

⑤英語[まとめ・アウトプット]
【ディベート】
[思考力，ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力，解決力･･･]

３　事業実施による成果・課題・来年度以降の予定

・成果

・WWL事業の課題

・波及効果

・校内外・他の組織との連携に対する変化・効果

・来年度以降の予定

・自走に向けて必要な準備

成果①　2020年度　全国高校生フォーラム

昨年度:文部科学大臣賞受賞
今年度は，司会進行役を担当

成果②　Stanford e-Hiroshima

主催　広島県教育委員会　　・県内の高等学校等から選抜

・スタンフォード大学によるオンライン講座（半年間）

・グローバルな社会課題などをテーマにディスカッションなどのセッション

・優秀者は現地スタンフォード大学で発表　昨年度選出

成果③　高校生平和大使

「軍縮会議に高校生平和大使　被爆者の願い訴え」　→
共同通信 8/13(金)

ジュネーブ軍縮会議の会合で、佐々木梨央さんのビデオ演説を聞く各国代表ら＝12日（共同）（KYODONEWS）

概要

・核廃絶と世界平和のために活動。（外務省からユース非核特使委嘱）

・第24代高校生平和大使（任期：来年８月末）

成果④　ビジネスプラン・グランプリ『学校賞』受賞

概要

・文理融合科目「グローバル平和探究」の単元　「都市問題・貧困問題」

・課題　発展途上国において　「BOPビジネス」を提案　　グループ（５人）でプレゼン

・日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募

【WWL事業の課題】

①他の組織，他校，教育委員会，海外の姉妹校等との連携が常に必要で，自校での取組と併せて，担当者は多忙極まる状況であった。

②学校全体で事業にかかわるということの難しさ

③アドバンスト・プレイスメントでの大学との連携は，事務手続きの面などの困難さがあった。

【波及効果】

①教職員への影響

・全教職員が，生徒に社会課題に目を向けさせたり，SDGsと関連づけて課題を認識させるようになった。

・単元の終わりや毎時間の授業で，発問に生徒自身に自分事として社会課題を考えさせる傾向が増えている。

②生徒への影響

・国際会議や高校生平和大使など，校外の活動に積極的に参加する生徒が増えた。他の生徒にとっても刺激を受ける良い機会だった。

・新科目により，グローバルな社会課題をテーマとした英語の言語活動が増え，生徒の問題意識と英語運用能力の両方を高めることに役立った。

・英語使用のハードルが下がり，英語力の向上にもつながった。（実用英語技能検定上級取得者が増えた。）

【校内外・他の組織との連携に対する変化・効果】

①講演を依頼した企業などの組織：カリキュラムアドバイザーとの連携によって，大学・企業・行政など専門的知識を持つ方の講演を聴くことは，社会で起こっている問題を身近に捉えるという実感を生徒自身が持つことにも繋がった。

②大　学：アドバンスト・プレイスメントでは高度な学びを受けることができ，参加した生徒は自分の進路を考える良い機会となった。

③連携校：他校の探究活動を参観し，参考にできた。生徒は発表会に参加し，良い刺激が得られた。

④姉妹校：姉妹校にSDGsを説明し，共通のテーマで課題研究に取り組んだ。

⑤同窓会：TAに同窓会の協力を得た。同窓会の支援が組織化され，年々指導助言が有意義なものとなってきている。（本年度は同窓会総会の講演会でWWLの発表をした。生徒には貴重な経験となり，同窓会とのつながりを深められた。）

#【来年度以降の予定】

①「平和」「SDGs」をテーマにした授業の継続

・総合的な探究の時間

・外国語科（英語）の授業

・文理融合科目

②姉妹校との研究交流（オンライン，相互訪問）

③課外活動

・アドバンスト・プレイスメント

・「平和大使」や「国際協力」に関する活動

・管理機関・連携校との連携による活動

【自走に向けて必要な準備】

①WWL推進委員会を毎週開き，各事業の進捗管理をし，上手く機能した。何らかの後継代替の組織が必要。

②新学習指導要領に応じた展開
ーコンセプトを守りつつ，何を残し削るのかを明確にする。

ー「個の学習場面」と「協働的に学ぶ場面」を組合わせた授業の工夫を推奨。

③今後は予算が限られるため，外部連携を維持したり，多様な学びの機会を確保しつつ，経費のかからない事業の工夫，外部が企画するプログラムの導入を積極的に考える。